

7-4

施設における感染対策の実施

高齢者施設の感染対策の基準は何ですか？

職員研修

環境整備

介護老人福祉施設 葛飾やすらぎの郷

介護職 長谷川 浩司	看護師 塚田 望
東京都葛飾区新宿 3-4-10	看護師 中山 美千代
TEL : 03-5648-8250	E-mail : hiroshi-hasegawa@totokyogikai.jp
FAX : 03-5648-8251	URL : http://www.sukoyaka-fu.or.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人すこやか福祉会が母体である葛飾やすらぎの郷は平成13年4月に80床の特養、短期入所生活介護16床、デイサービスを開設された福祉施設です。
----------------------------	--

<取り組んだ課題>

- * 感染委員会を発足し活動
- * 看護師からの視点で感染を見ると介護職との話し合いが必要
- * 病院の感染対策をそのまま適用できない

<具体的な取り組み>

- * 2006年から継続中
 - * 感染対策の立案
 - * 指針・マニュアル改正、作成
 - * 施設内感染対策に関する、職員への研修
 - * 入所者・職員の健康状態の把握
 - * 感染症の発生時の対応と報告
 - * 感染対策実施状況の把握と評価
 - * 施設内環境整備
 - * 感染対策担当看護師、施設長、介護課長、管理栄養士、事務長を中心として、環境整備を行い、研修は研修委員を中心、業務内容の見直しは介護主任を中心に行なった

<活動の成果と評価>

- * オムツ交換時の両手グローブ着用、手洗い又は手指消毒の徹底が周知され実行されるようになった。
* 用度室の、清潔・不潔区域等の整備の考え方や、環境の整備が進み、物品の消毒を日常業務に組み込むことができるようになった。*
- * 定期的に委員会を開催することで、職員への感染に対する学習会や、感染が多発する時期への対策が早期に対応できるようになった。

<今後の課題>

- * オムツ交換時の常時両手グローブ着用は、手あれや皮膚への影響があり、保護対策やカブレ対策も同時に必要となる。
- * 費用面での負担が大きいため、管理部との話し合いで協力が必要である。
- * 職員の知識や理解が、日々の業務の中でシステム化し継続されなければならず、流行時の予防対策、発生時の早期対応ができるよう職員全体で取り組めるシステム化が常に求められる。